

2019年度 環境活動報告

環境行動実績

※対象範囲:(株)日立物流及び国内連結グループ会社(21社)。

(2019年度中に持分法適用会社に移行した1社の実績を含む。)

No	目的	行動計画	2019年度 注1)	
			目標	実績
<b>法令の遵守(条例等を含む)</b>				
1	地球温暖化防止	「建物」の「延床面積当り電気使用量」の削減	2018年度実績比1%削減	3.0%削減
2	資源循環促進	廃棄物等排出物の適正管理	処理等の確実な推進	左記を実施
3	管理レベルの向上	上記以外の環境法令の遵守	フロン・PCB・浄化槽・自動車等の関係法令・条例への対応	同上
<b>環境負荷の低減</b>				
4	地球温暖化防止	「車両」の車種別燃費向上(CO <sub>2</sub> 排出量低減)(走行距離/燃料使用量)	2018年度実績比+1%	0.4%増
		CO <sub>2</sub> 総排出量、グループ合計	—	6.1%減
2019年度CO <sub>2</sub> 総排出量:119,753トン、建物の延床面積当りCO <sub>2</sub> 排出量:23.0kg/m <sup>2</sup> (CO <sub>2</sub> 総排出量本部Gr別内訳) ①東日本営業本部Gr:37,669トン                      ②首都圏営業本部Gr:13,682トン ③中部営業本部Gr :10,289トン                      ④西日本営業本部Gr:26,066トン ⑤本社管轄 :26,029トン                              ⑥その他Gr会社 :6,018トン				
5		モーダルシフトの推進	新規顧客/新規ルートの開拓推進	医薬品の鉄道モーダルシフト等の実施。注2)①
6		LED照明設備の導入推進	新設建屋へのLED照明への全面採用。既存の蛍光灯、水銀灯からの切り替え。	左記を実施
7		環境負荷の少ないプラスチック使用の促進	リデュース、リターンブル、リサイクル、自然環境に拡散しない方法での廃棄等	左記を実施
8	資源循環促進	廃棄物の再資源化率向上 注3)	99%	99%
		(グループ合計) 2019年度廃棄物発生量:29,892トン(廃棄物発生量本部Gr別内訳) ①東日本営業本部Gr:8,711トン                      ②首都圏営業本部Gr:1,485トン ③中部営業本部Gr :2,657トン                      ④西日本営業本部Gr:8,324トン ⑤本社管轄 :6,480トン                              ⑥その他Gr会社 :2,235トン		
		水使用量の原単位低減 注4)	床面積原単位を前年度実績比1%以上抑制	7.5%減

9		(グループ合計) 2019年度水使用量: 318,916m <sup>3</sup> (本部Gr別水使用量内訳) ①東日本営業本部Gr: 110,854m <sup>3</sup> ②首都圏営業本部Gr: 35,016m <sup>3</sup> ③中部営業本部Gr: 15,209m <sup>3</sup> ④西日本営業本部Gr: 74,868m <sup>3</sup> ⑤本社管轄: 41,917m <sup>3</sup> ⑥その他Gr会社: 41,052m <sup>3</sup>	(本部Gr別水使用量床面積原単位内訳) ①東日本営業本部Gr: 0.091m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> ②首都圏営業本部Gr: 0.083m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> ③中部営業本部Gr: 0.051m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> ④西日本営業本部Gr: 0.083m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> ⑤本社管轄: 0.076m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> ⑥その他Gr会社: 0.193m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup>	
10		グリーン購入率の向上 注5)	90%	86%
11	物流サービスの環境 対応強化	より環境性能に優れたエコカー 注6) (最新型エコカー)への代替	(エコカー比率)100%	100%
12			エコドライブの継続推進	燃費向上目標(前年度比1%向上)をフォー ロー・改善
13	生物多様性と生態系の 保全	森林資源の保護	コピー用紙使用量を 前年度実績比1%以 上抑制	5.3%減 (A4換算使用量)
<b>教育・コミュニケーション促進</b>				
14		従業員とのコミュニケーション(※環境啓 発活動)の充実 ①環境関連活動の現状 と意義 ②環境関連知識の向上	従業員向けの環境関 連情報の発信	左記を実施
15	環境コミュニケーション の促進	環境に関する社会貢献活動等の推進	社外清掃活動等への 積極的な参加 ライトダウンの実施 (年2回)	事業所周辺・地域の清 掃活動への参加、夏 至/七夕のライトダウン、グ リーンカーテン設置等
16		環境広報活動の充実 (情報開示と発信の強化)	環境関連表彰への応 募、環境広告宣伝、情 報開示等	社外表彰3件受賞 注2) 社外HPへの情報開示
17	環境意識の向上	「環境e-ラーニング」受講率	99%	99.7%
<b>環境マネジメント</b>				
18	環境管理レベル向上	「環境重点テーマ」設定による環境活動 の促進 (1回/期)実施	やらされ感→わたくし ごと化へ (VC21の概念)	左記実施 (224拠点)
19		「省エネ点検表」による運用改善の推進 (1回/期)実施	照明・空調の運用状 況を確認し、一層の 改善の推進	左記実施 (132拠点)
20		環境経営システム「エコステージ」によ る環境管理の推進	本社環境部門主導 の活動展開	2017年度より、エコス テージ2認証取得
21		産廃の電子 manifests 交付の推進	100%	100%

注1) 日立物流グループ連結ベースの目標値と実績を記載。

注2) 社外表彰案件

- ①令和元年度モダリティシフト取り組み優良事業者賞「新規開拓部門」(一般社団法人日本物流団体連合会主催)  
件名: 富山発全国向け、医薬品の鉄道中長距離モダリティシフト
- ②グリーン物流パートナーシップ会議「経済産業大臣表彰」を共同受賞(国土交通省、経済産業省、(一社)日本物流団体連合会、(公社)日本ロジスティクスシステム協会主催)  
事業名: 店頭販促物の3社共同配送事業
- ③日本パッケージングコンテスト「ロジスティクス賞」「電気・機器包装部門賞」(公益社団法人日本包装技術協会主催)  
件名: 医用自動分析装置の包装改善—「ロジスティクス賞」  
ノートPC用サイズ可変オール段ボール緩衝材—「電気・機器包装部門賞」

注3) 再資源化率=(再使用量+再生利用量+熱回収量)/総排出量

注4) 水使用量床面積原単位(水使用量/床面積)

注5) グリーン購入率: e-sourcing MALL(電子購買システム)にて購入した事務用品の内、エコ製品の比率

注6) 最新型エコカーの種類: 天然ガス車、ハイブリッド車、電気自動車、LPG車(併用車を含む)、国が認定している「低燃費車(H27年度燃費基準達成車)」「低排出ガス車(H17年度規制車)」、「ポスト新長期規制適合車(H28年度規制車)」、燃料電池車、バイオ燃料車